

※ 緑文字は職員へのアンケートを実施して成果を検証するものです。同様に、青文字は児童生徒へのアンケートで、赤文字は保護者へのアンケートで成果を検証します。

平成29年度 西都市立三納小中学校自己評価書

【評価基準】 4～期待以上 3～ほぼ期待どおり 2～やや期待を下回る 1～不十分

領域	評価項目	区分	評価指標または数値目標	結果	学校の自己評価と改善策	自己評価		学校関係者評価委員のコメント	評価
						指標別	総合		
III 体力の向上と健康な体づくり	① 体力向上の推進	共	a 体力テストを分析し、どの学年でも前年度のテスト結果を上回るようにする。 b 体育の授業において、どの学年でも三納っ子ウォーミングアップ運動を実施する。 c 小中学校運動会を充実させる。	a 種目によって、前年度より上回っている学年と下回っている学年があった。 b アンケートでは、67%が実施している。 c 細かな反省点はあるが、全体的に充実していた。	a 落ち込んでいる種目を改善するために三納っ子ウォーミングアップ運動を授業に取り入れている。 b 今後も継続していく。 c 反省点を来年度に活かす。	3.05	3.35	運動会、持久走大会、駅伝大会、縄跳び大会等、体育的行事も日常の体育科授業もしっかり取り組んでいると感じる。職員の自己評価も高い。今後も、児童生徒の体力の向上を目指して計画的に取り組んでほしい。	4
		小	d 体育的行事を定期的に実施する。(持久走大会、なわとび大会など) e 晴れの日では外で遊ぶ児童を90%以上にする。	d 計画通り実施できた。 e 晴れの日ではほとんどの児童が外で遊んでいる。アンケートでも90%の職員が、よく外で遊んでいると答えている。	d これからの体育的行事でも、児童に体力や技能等に係る目標をもたせながら、計画的に実施していく。 e 今後も児童保健体育委員会、学級担任が呼びかけていく。	3.53			
		中	f 体育的行事を定期的に実施する。(部活動、三校対抗駅伝持久走大会など)	f 各部とも一生懸命練習している。各部指導者の方々も熱心に指導してくださっている。駅伝持久走大会に向けての練習も計画どおり実施できた。	f 今後も計画的に取り組ませる。	3.4			
	② 健康安全指導の充実	共	a 健康診断後の指導を充実させ、家庭への啓発を図る。 b 毎月「すこやかウィーク点検週間」を実施し、保護者の協力を得ながら、基本的な生活習慣の定着を図る。 c 性教育の授業を実施し、性教育の充実を図る。 d 学校保健委員会を開催し、家庭と協力して、各学年で設定した目標達成を目指して実践させ、健康な生活習慣の確立を図る。 e 安全点検を実施し、危険箇所を改善を図る。	a 健康診断の結果を、各種カード等により家庭へ通知した。う歯の治療率が44%と低い。 b テーマを設定し計画的に実施している。メディアについては、毎回点検項目に入れているが、アンケートによると、メディアコントロールに取り組んでいる家庭は小学部57%、中学部34%にとどまっている。 c 各学年で年間計画に沿って実施している。 d 第3回学校保健委員会を開催し、本校児童生徒の健康に関する実態について説明し、実態から見えてくる健康課題と手立てについて協議した。 e 原則として毎月第2週に安全点検を実施している。学期の始めと終わりには、各部や学年部で担当箇所を点検するなど実施方法を工夫した。修繕については、少しずつ改善が図られており、危険箇所が少なくなってきた。	a う歯治療については、冬休みに個別指導を行い、早期治療の大切さについて指導する。 b すこやか点検については、マンネリ化を防ぐため、内容を簡素化するなど、実施方法を工夫する。 c メディアコントロールについて啓発に努める。 d 学校保健委員会で協議した内容をもとに、今後の具体的な取組について検討する。 e 校舎外は、各分掌部で点検しているが、なかなか時間が合わないときがあるので、学年部での実施を考える。	3	3	メディアコントロールについては、自己評価は低いが、今年度は努力事項をノーメディアデーからメディアコントロールへと変更し、学校保健委員会を中心に、各学年で具体的な取組を決定し実践したことで、保護者の意識が変わり、自己評価の達成率は小中共に大幅に向上した。この取組を継続し、今後も健康な生活習慣の充実を家庭と連携を図りながら取り組んでほしい。	4
		共	a 給食の残食ゼロを目指す。 b 給食時の日常指導や「給食指導の日」の指導を徹底する。 c 栄養教諭、養護教諭、外部講師を活用して、食育の指導を充実させる。 d 「お弁当の日」を実施する。(小学部は年2回、中学部は年1回) e 朝食を食べて登校する児童生徒を100%にする。	a 残食は学年によって差があるが、1学期に比べて少なくなってきた。 b 給食当番の指導を行っているが、マスク忘れや爪が伸びている者がいるときがある。 c 栄養教諭の協力で、年間計画に沿って食育の授業を実施している。また、本年度は小学5年生を対象に外部講師による味覚の授業を実施した。 d 小学部は秋の遠足で実施し、感想や写真を校内に掲示した。 e アンケート結果によると、97%以上の児童生徒が朝食を食べて登校している。	a 今後も日常の指導や食育授業で指導していく。 b 金曜日の放送による呼びかけと月曜日の点検を徹底する。 c 今後も継続していく。 3学期は、給食感謝週間を設定したり、給食感謝集会を開いたりすることで食に対する感謝の気持ちを育てるようにする。 d 3学期は、送別遠足(小中)で実施する。 e 保健指導や食育授業で朝食の大切さについて指導を行うとともに、保健だよりや掲示物により啓発をする。	3.21	3.21	給食の残食については、量の問題や味付け(おいしさ)によるところが大きい。特に低学年にとっては、パンの量が多くないか。給食は児童生徒の健康を考えて栄養のバランスを考慮してつくられているので、残食が出ないよう、給食センターと連携を図ってほしい。以前は、体型のことを考えて、給食を食べ残す子どもがいた。本校ではそのようなことはないが、そのあたりのことも気を配ってほしい。朝食については97%の子どもがとってきているが、残りの3%が気になる。同じ子どもではないか。もし、同じ子どもだとしたら、家庭環境の問題もあると思うので十分注意してほしい。	4